

Cyviz Software Platform

よくあるご質問（FAQ）

1. Cyviz Software Platform とは何ですか？

Cyviz Software Platform（サイビズ ソフトウェアプラットフォーム）は、AV、IT、ユニファイドコミュニケーション、ビル設備、IoT 環境などを一元的に監視・管理するためのプラットフォームです。

複数の拠点に分散した数千台規模の機器について、稼働状況のリアルタイム把握、異常の早期検知、遠隔管理、パフォーマンスの最適化を、安全性を確保した統合インターフェースから実行できます。

2. 遠隔監視・管理はどのように行いますか？

各拠点に設置されたエッジエージェントを通じて、接続された機器の稼働状況やパフォーマンスに関するデータをリアルタイムで収集します。収集したデータは、Cyviz のクラウド基盤と安全に通信し、統合ダッシュボードに集約されます。

これにより、以下の操作・管理が可能になります。

- すべての拠点における機器の稼働状況、ステータス、パフォーマンスの監視
- 異常や問題を検知した際のアラート通知
- 遠隔からのトラブルシューティングや設定変更
- 現地訪問を伴わないファームウェア更新や設定の適用
- あらかじめ定義したワークフローによる定型的な保守作業の自動化

これらの機能により、現地訪問の必要性を減らし、対応時間の短縮を支援します。1 棟の建物から数百拠点に及ぶ大規模環境まで、効率的な運用管理を実現します。

3. リモートアクセスはどのように行いますか？

権限を付与されたユーザーは、Web ベースのインターフェースを通じて、場所を問わず安全に機器へアクセスし、操作できます。

主な機能は以下のとおりです。

- ローカルネットワークや分散ネットワーク内にある機器への直接アクセス・操作
- 暗号化された安全な接続と、役割に応じたアクセス制御
- 重要なシステムを保護する多要素認証
- すべてのリモートセッションと操作を記録する監査ログ

ユーザー、役割、テナントごとにアクセス権限を設定できるため、セキュリティを維持しながら、適切なユーザーが必要なシステムへアクセスできる環境を構築できます。

4. オンプレミス、クラウド、ハイブリッド環境に対応していますか？

はい。以下の導入形態に対応しています。

- クラウド環境
- オンプレミス環境
- ハイブリッド環境

企業ごとのセキュリティポリシー、コンプライアンス要件、IT インフラの構成に応じて、適切な導入形態を選択できます。厳格な規制への対応が求められる業界や、複数の国・地域に拠点を展開する企業にも柔軟に対応します。

5. クラウド経由の監視と、機器への直接アクセスを併用できますか？

はい。クラウドを介した一元的な監視と、ローカルネットワーク内の機器への直接アクセスの両方に対応しています。

ネットワーク構成、セキュリティポリシー、運用要件に応じて、いずれか一方、または両方を組み合わせて利用できます。どちらの方式でも、必要な機能を維持しながら運用できる設計となっています。

6. 対応している通信プロトコルやメーカーを教えてください。

Cyviz Software Platform は、特定のメーカーに依存しない設計を採用しており、幅広い業界標準プロトコルに対応しています。

主な対応プロトコルには、SNMP、HTTP、SSH、BACnet、KNX のほか、各種独自 API が含まれます。

また、Crestron、Q-SYS、Cisco などの主要メーカーの製品に加え、ディスプレイ、ビデオウォール、ネットワーク機器、センサー、照明、オートメーションシステム、SCADA・ビル管理システムなどとの連携にも対応しています。

メーカーやシステムの種類が異なる機器を、一つのインターフェースに集約して監視・管理できます。

7. どのようなシステムと連携できますか？

企業の IT 環境を構成するさまざまなシステムとの連携に対応しています。

主な連携対象は以下のとおりです。

- IT サービス管理（ITSM）・チケット管理システム
- シングルサインオン（SSO）や Active Directory などの認証基盤
- 監視・アラート通知ツール
- コラボレーションプラットフォーム

API や Webhook を活用することで、既存の業務システムや運用プロセスに Cyviz のデータやイベント情報を組み込み、業務フローの効率化を図ることができます。

8. AI や予測分析の機能はありますか？

はい。機器から収集した稼働データを分析し、障害につながる可能性のあるパターンを特定する AI 支援型の診断機能を備えています。

主なメリットは以下のとおりです。

- 障害発生後の対応から、予防保守を重視した運用への移行
- 機器の状態評価や傾向分析の自動化
- システム停止時間の短縮と SLA（サービス品質保証）の達成状況の改善
- 重要度に応じたアラートの通知・優先順位付け

問題の兆候を早期に把握することで、業務への影響を抑え、安定したシステム運用を支援します。

9. 独自の連携機能やプラグインを追加できますか？

はい。オープンな SDK とプラグインアーキテクチャを採用しており、パートナーや開発者が独自の機能を追加できます。

主な用途は以下のとおりです。

- 特定の機器や業界固有のシステムに対応するカスタムプラグインの開発
- 独自のワークフローや自動化ルールの構築
- 既存の企業向けツールや業務プロセスとの連携

こうした拡張性により、製造、エネルギー、防衛、教育、エンターテインメントなど、さまざまな業界のニーズに合わせたシステム構築が可能です。

10. 独自のダッシュボードを作成したり、API 経由でデータにアクセスしたりできますか？

はい。カスタマイズ可能なダッシュボード、レポート機能、安全なデータアクセス用 API を備えています。

ユーザーの役割や拠点に応じた表示画面を作成できるほか、機器から収集したデータを BI ツールと連携させたり、独自の分析ソリューションを構築したりすることも可能です。

日々の運用や業務フローに合わせて、必要な情報を見やすい形で活用できます。

11. どのような業界で利用できますか？

幅広い業界・施設での活用を想定しています。

- 企業・オフィス：会議室、コラボレーションスペース、複数拠点の AV・IT 環境
- 教育・研究：教室、研究室、講義室、デジタル学習環境
- 製造業：工場設備、制御室、環境監視システム
- エンターテインメント・スポーツ：大規模施設の AV・ディスプレイシステム
- 政府・防衛：セキュリティが求められる指令・管制環境
- エネルギー：運用技術（OT）や重要インフラの監視

業界や施設の特性に応じて、分散した機器・システムの一元管理と安定した運用を支援します。

12. どのようなセキュリティ・コンプライアンス要件に対応していますか？

セキュリティをプラットフォームの設計全体に組み込んでいます。

主な機能は以下のとおりです。

- エンドツーエンドの暗号化
- 役割に応じたアクセス制御
- 多要素認証
- ユーザーおよびシステムの操作・活動履歴の記録

また、クラウド、オンプレミス、ハイブリッドといった導入形態を選択できるため、社内のがバナンス要件、データの保管場所に関する要件、業界固有のコンプライアンス要件に合わせた構成が可能です。

13. マルチテナントに対応していますか？

はい。複数のテナントを安全に管理するマルチテナント機能に対応しています。

テナントごとにデータを分離し、個別のアクセス制御やレポート作成が可能です。

そのため、マネージドサービスプロバイダー（MSP）、システムインテグレーター、複数の事業部門や顧客環境を管理するグローバル企業などに適しています。

一つのプラットフォームから、複数の顧客や組織の環境を効率的に管理できます。

14. マネージドサービスプロバイダー（MSP）にとって、どのようなメリットがありますか？

Cyviz Software Platform は、MSP やサービスパートナーによる運用管理を想定して設計されています。

マルチテナント機能、統合ダッシュボード、自動レポート作成などにより、以下を実現します。

- 一つのインターフェースから複数の顧客環境を管理
- SLA に基づく予防的なサービス提供
- 現地訪問や出張対応の削減
- マネージドサービスによる継続的な収益モデルの構築
- 自社ブランドを活用した、差別化された顧客体験の提供

運用管理の標準化と自動化を通じて、サービスの効率化と事業の拡大を支援します。

15. AV システム以外も監視できますか？

はい。Cyviz Software Platform は、AV やユニファイドコミュニケーション（UC）だけでなく、IT、ビル管理、運用技術（OT）にも対応しています。

従来の AV 機器に加え、空調設備（HVAC）、照明、入退室管理、SCADA システム、産業用機器なども連携対象に含まれます。

これにより、個別のシステムに分かれていた情報を集約し、施設全体の稼働状況を一元的に把握できます。

16. 利用にあたって専用ハードウェアの設置は必要ですか？

いいえ。Cyviz Software Platform はソフトウェアベースのソリューションです。

既存の IT インフラに導入できる軽量なエッジエージェントを利用するため、専用の制御プロセッサ、ゲートウェイ、専用ハードウェアを新たに用意する必要はありません。

これにより、導入コストの抑制や導入プロセスの簡素化に加え、特定メーカーの専用機器に依存するリスクの低減にもつながります。

17. 特定メーカーの機器に限定されていますか？

いいえ。Cyviz Software Platform は、特定のメーカーに依存しない設計です。

SNMP、HTTP、SSH、BACnet、KNX などのオープンな通信プロトコルや、各メーカーが提供する独自 API を通じて、さまざまなメーカーの機器と連携できます。

特定のメーカーの製品群や独自の通信方式に統一する必要はなく、異なるメーカーの機器が混在する環境でも、一元的な監視・管理を実現できます。

18. インターネットから隔離された環境や、高度なセキュリティが求められる環境でも利用できますか？

はい。オンプレミスやハイブリッド環境での導入に対応しており、インターネット接続が制限された環境や、接続できない環境での運用にも対応可能です。

このような構成は、ネットワークの外部接続を遮断する必要がある政府・防衛分野、エネルギー分野、重要インフラなどで特に重要となります。

データの管理場所やネットワーク接続に関する厳格な要件に合わせた導入を支援します。

19. パートナー企業が自社ブランドで提供することはできますか？

はい。パートナーによるブランド設定に対応しています。

マネージドサービスプロバイダーやシステムインテグレーターは、Cyviz の技術基盤を活用しながら、自社ブランドを反映したサービスを顧客に提供できます。

これにより、自社独自のサービスとして差別化を図り、顧客との継続的な関係構築を支援します。

20. 複数拠点に数千台の機器がある大規模環境にも対応できますか？

はい。Cyviz Software Platform は、大規模かつ分散した環境への拡張性を考慮して設計されています。

各拠点に配置されたエッジエージェントが現地で機器のデータを収集し、中央のクラウド基盤と連携します。これにより、多数の機器や拠点を含む環境でも、効率的な監視・管理を実現します。

また、役割に応じたダッシュボード、テナントごとのデータ分離、自動アラート通知などにより、大規模なシステム環境でも管理の負担を軽減します。

21. 一般的な AV 管理ツールとの違いは何ですか？

一般的な AV 管理ツールは、会議室やワークスペースに設置された AV 機器やユニファイドコミュニケーション機器の監視を主な対象としています。

一方、Cyviz Software Platform は、AV、IT、ビル設備、運用技術（OT）を一つのインターフェースに統合できる点が特長です。

SNMP や SSH などの IT 関連プロトコルに加え、BACnet や KNX などの設備関連プロトコルにも対応。企業のオフィスから指令・管制センター、エネルギー関連施設、防衛関連施設まで、幅広い環境での運用管理を支援します。

さらに、オープンな SDK、柔軟な導入形態、専用ハードウェアを必要としないソフトウェア構成により、AV 機器の監視に特化したツールでは対応しきれない、施設全体の統合管理を実現します。

お問い合わせ

施設全体の AV・IT 環境を、よりスマートに管理しませんか？

Cyviz の高度なビジュアライゼーション、統合コミュニケーション、制御技術を活用し、重要な意思決定を支える運用環境の構築を支援します。導入や製品に関するご相談は、お気軽にお問い合わせください。

<正規販売代理店：株式会社メディアプラス>

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 3-11-6 清水書院サービス第 2 ビル 7F

[TEL:03-3237-9003](tel:03-3237-9003)

<https://www.mediaplus.co.jp/>